

短大特任教員教育研究業績書

平成30年5月7日

氏名	ふりがな	所属	職位	性別
橋浦 孝明	はしうら たかあき	保育学科 通信教育課程	講師	男

担当科目名

健康指導法、身体表現Ⅰ・Ⅱ

学歴

和暦(西暦)年 月	事項	学位
平成9(1997)年4月	仙台大学 体育学部部 健康福祉学科 介護福祉士養成コース入学	
平成13(2001)年3月	仙台大学 体育学部部 健康福祉学科 介護福祉士養成コース卒業	学士(体育学)
平成18(2006)年4月	仙台大学大学院 生涯科学スポーツ領域 入学	
平成20(2008)年3月	仙台大学大学院 生涯科学スポーツ領域 修了	修士(体育学)

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
ろりぼっふ邑(幼稚園・保育園・学童保育) (体育専任講師)	平成16年4月 ～平成20年3月	カリキュラムとして3・4・5歳児全てのクラスにて運動遊びを継続的に実施
仙台医療福祉専門学校 仙台医療技術専門学校 (非常勤講師)	平成17年4月 ～平成22年3月	「体育」「レクリエーション」担当
仙台幼児保育専門学校 (非常勤講師)	平成18年4月 ～平成22年3月	「幼児体育(講義・実技)」担当
近畿大学豊岡短期大学 (非常勤講師)	平成20年4月 ～平成22年3月	「幼児体育(講義・実技)」担当
仙台大学 (非常勤講師)	平成20年4月 ～平成22年3月	「レクリエーション実技Ⅰ」担当
東北福祉大学 (兼任講師)	平成21年4月 ～平成22年3月	「保育内容研究(運動あそび)」担当
学校法人 昌平 いわき短期大学 幼児教育科 (専任講師)	平成23年4月 ～平成30年3月	「幼児体育Ⅰ・Ⅱ」「保育内容指導法(健康)」「子どもの健康と運動」「スポーツ(講義・実技)」「実習指導」「クラスゼミⅠ・Ⅱ」担当
小田原短期大学	平成30年4月 ～現在に至る	保育学科通信教育課程 「健康指導法」「身体表現Ⅰ・Ⅱ」担当

所属学会等

名称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
日本発育発達学会	平成28年～現在	大会参加

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
いわき短期大学附属幼稚園 運動遊び担当	平成23年6月 ～平成27年3月	東日本大震災により戸外の使用が制限されていたため、週1回運動遊びを室内で実践。屋内では特に上下の動きが不足することを懸念した。このように戸外が使用できないため不足しがちな運動体験を遊びを通して補完していった。

いわき短期大学 子育て支援事業 運動遊び担当	平成23年6月 ～平成26年3月	いわき短期大学で行っている子育て支援事業として、いわき駅前の商業施設での一時預かり事業を行っている。東日本大震災後、戸外の使用が制限されているため、室内で運動量・質の確保のため、運動遊びを創作・実践した。

担当教科目に関する資格・免許等

名 称	取得年月	取 得 機 関
	年 月	
	年 月	

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著 共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 実践 保育内容シリーズ①健康	共著	平成26年4月	株式会社 一藝社 99-108	第9章3～6歳の発達を促す運動遊びを分担執筆。「運動遊びの意義」や「子どもの動きたいという意欲を育む」ため、また「多様な動きを経験」してもらえようなどの環境設定や動機付けなどを紹介した。また、運動遊びを行っている子ども達の内面を観るというための視点などをいくつか紹介した。さらには戸外で遊んでもらえるよう固定遊具の使い方を紹介した。 共著：谷田貝公昭・高橋弥生（編）橋浦孝明 他
楽しく学ぶ運動遊びのすすめ ポートフォリオを活用した保育実践力の探究 共著 柴田卓・石森真由子（編）	共著	平成29年5月	株式会社みらい 110-114	lesson4 楽しく遊ぶための技とコツを分担執筆。5領域健康を踏まえ、運動遊び時における子ども達が自ら進んで取り組めるような雰囲気作りを紹介した。また、身体動作の共有のため、さらには動機付けのために言葉を用いて伝えるおもしろさなどを紹介した。さらに、運動時の雰囲気づくりとして「結果ではなくプロセス」を保育者は観るよう強く明記した。運動遊び時子ども達が自分の身体をどのように動かしているかという身体知を紹介した。 共著：柴田卓・石森真由子（編）橋浦孝明 他
(学術論文) 被災地福島県いわき市における戸外遊びとスポーツ環境の現状について	共著	平成26年3月	公益財団法人笹川スポーツ財団 2013年度笹川スポーツ研究助成研究成果報告書 289-295	福島県いわき市内の幼稚園・保育園、総合型スポーツクラブなど子どもの運動の場となるであろう「場」の東日本大震災後の実態を各施設の現場担当者、責任者にヒアリング調査を行い、子ども達の運動の場の震災後の実態を明らかにすることを目的とした。それぞれの場において、保育者やスポーツ指導者が時間の流れとともに変化する課題を現場の工夫や保護者との合意形成などを通して克服していている様子があった。 共著：橋浦孝明 岩村聡（東日本国際大学）
「主体性」と思考を育む震災後の保育士養成の試みー養成課程における科目編成とルーブリックの可能性ー	共著	平成29年3月	いわき短期大学 研究紀要第50号 25-44	「震災後の保育者に必要とされる主体性と思考力の涵養」について、より具体的な実践とその可能性を提示・検討すると共に、それを成立させるものとしての「養成課程（カリキュラム）に潜む二つの課題」を明らかにする。とりわけ、実技科目と座学における「学生の主体的な学び」をより可視化し、多面的に評価するその術を模索するために、保育内容「健康」、幼児体育と保育内容「言葉」、国語（表現）という、「身体とこと

<p>(研究ノート) 東日本大震災後のスポーツ・運動環境の変化に関する調査研究</p>	<p>共著</p>	<p>平成 26 年 3 月</p>	<p>いわき短期大学 研究紀要第 46 号 69-80</p>	<p>ば、「実技と思考(性)」に関する四科目に焦点を当て、その連続性と横断性の可能性について検討した。 共著：橋浦孝明 前正七生(淑徳大学短期大学部)</p> <p>福島県いわき市内の幼稚園・保育園、総合型スポーツクラブなど子どもの運動の場となるであろう「場」の東日本大震災後の実態を各施設の現場担当者、責任者にヒアリング調査を行い、子ども達の運動の場の震災後の実態特に時間による課題の変化を明らかにすることを目的とした。 共著：橋浦孝明 岩村聡(東日本国際大学)</p>
<p>保育者養成における「学ぶ意欲」を育む試み ― 身体と心理・運動とことばの接続―</p>	<p>単著</p>	<p>平成 29 年 3 月</p>	<p>いわき短期大学 研究紀要第 50 号 121-128</p>	<p>1つの子ども達の映像から、身体を専門とする教員と心理・ことばを専門とする教員からは、同じものを観てもどの様に支店が違うのか、それらを通して「多角的に観る」こと、さらには何故保育者養成課程には様々な科目があつてそれぞれが重要なのか、また科目間の共通性の整理を学生に理解してもらえ授業の検討をした。</p>
<p>(活動報告) 震災後における運動遊び支援について</p>	<p>単著</p>	<p>平成 23 年 3 月</p>	<p>いわき短期大学 研究紀要第 45 号 75-79</p>	<p>2011 年に起こった東日本大震災の影響が大きく子ども達にも死者が出てしまった宮城県の保育所で臨床心理士と行っていた運動遊び支援についての報告を行った。その活動を通じて子ども達が少しずつ自我の開放をしていく姿があつた。</p>
<p>(その他) 公益財団法人笹川スポーツ財団奨励研究助成</p> <p>科学研究費助成事業 基礎研究 (C) (一般) 福島県いわき市における震災後の保育の現状と課題</p>	<p>共同</p> <p>共同</p>	<p>平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月</p> <p>平成 25 年～平成 27 年</p>	<p>公益財団法人笹川スポーツ財団</p> <p>日本学術振興会</p>	<p>共同研究者：岩村聡(東日本国際大学)</p> <p>研究分担者 代表前正七生</p>
<p>その他 (表彰等)</p>		<p>特になし</p>		